

第19回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおりWEB会議、文書会議を併用して開催しました。

「最上小国川流水型ダムの状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和2年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

1 日時 令和3年3月3日（水） 13:30～15:00

2 場所 最上総合支庁

3 出席者 13名（WEB会議6名、文書会議7名）

WEB会議：原慶明委員長、梅田信委員、本登渉委員、高橋光明委員（信夫栄代理）、伊藤秀樹委員（伊藤英一代理）、後藤精一委員（奥山浩代理）

書類会議：今井正委員、柳原敦委員、横倉明委員、阿部太悦委員、板垣善悦委員、伊藤一雄委員、高橋治委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員
【濁度計測】
 - ・濁度計測については欠測が少なく済むようにメンテナンスをし、洪水時（出水時）のデータも整理して、まとめていくことが重要だと思う。【河床状況調査】
 - ・ダム供用後の河川への影響変化があるかを見ていくために、長期的なモニタリングが重要であるため継続的な調査をお願いしたい。
- ・原委員長
【濁度計測】
 - ・事前シミュレーションとの比較も検討してもらいたい。【全般】
 - ・今までと同じような調査方法で続けていけるのが理想だが、マンパワー等も考慮し、今年度の調査結果が過年度と大きな変化はないため、今年度の調査方法でモニタリングを継続していったら良いと思う。
- ・本登委員
【魚介類調査】
 - ・内水面で定められている調査方法で実施し、電気ショッカーの使用は全国的に一般的な調査方法である。電圧が低く、足元にいる魚を気絶させる程度であり、気絶から回復すると泳いで逃げていくため、場合によっては網より魚を傷つけない。
- ・信夫代理
【濁度計測】
 - ・欠測期間を短くするためにも出水後のメンテナンスは重要である。
 - ・事前シミュレーションと比較する程の大雨がきたら、比較結果を説明してもらいたい。【その他】
 - ・昨年度に上流で山崩れがあり、下流にまで影響するような濁りが発生している。ダムには直接関係はないのだが、一般の人から見るとダムの濁りと勘違いされる心配がある。河川管理者として、何らかの対応・対策や地域住民への説明が必要ではないか。

【開催概況】

